

おくすりQ&A

妊娠中に痛み止めの貼り薬を使っても良いですか？

Q. 現在妊娠中です。痛み止めの貼り薬を使っても良いですか？

A. 妊娠後期（8～10ヶ月）では、胎児の動脈管という血管が収縮し発育に悪影響を及ぼす可能性があるため、使用を控えた方が良い貼り薬があります。

動脈管とは心臓から肺に血液を送る肺動脈と、心臓から全身に血液を送る大動脈をつなぐ胎児期のみ存在する小さな血管のことをいいます。胎児の血液の流れは成人と異なっており、これを「胎児循環」と呼びます。動脈管が収縮すると、胎児循環が崩れて胎児の心臓に負担がかかったり、生まれてから肺高血圧症を起こしたりすることがあります。

「NSAIDs（非ステロイド性抗炎症薬）」と呼ばれる消炎鎮痛効果のある成分は、動脈管を収縮させる作用があると以前から知られていました。例えばインドメタシン（商品名：インテバン）やジクロフェナクナトリウム（商品名：ボルタレン）、ロキソプロフェンナトリウム（商品名：ロキソニン）などを含む飲み薬や坐薬、注射薬は妊娠後期に使用することが禁止されています。一方で、貼り薬や塗り薬の場合は、胎児への影響が少ないと考えられていたため、妊娠後期の女性に対する使用は慎重に行われるべきという注意喚起にとどまっていた。

しかしNSAIDs（非ステロイド性抗炎症薬）の貼り薬であるケトプロフェンテープ（商品名：モーラステープ）を使用した妊娠後期の女性で、胎児動脈管の狭窄や閉鎖を生じた事例が2014年1月までに4例報告されました。そのうち1例は「1日1枚を1週間」という少量で短期間の使用による発生例だったため、2014年3月には妊娠後期の女性に対する使用を禁止するよう、厚生労働省より指示が出されました。ケトプロフェンテープ以外のNSAIDs（非ステロイド性抗炎症薬）の貼り薬や塗り薬については、妊娠後期の使用は禁止とはなっていませんが、同様に注意が必要です。

妊娠中は、ホルモンバランスや体型の変化により腰痛や肩こりなどの症状に悩まされることが多くなります。痛みを緩和させるため、貼り薬などに頼るのではなく、ホットタオルやカイロで患部を温めるのも効果的です。また日常的に体を動かす習慣を取り入れ、腰痛や肩こりを予防していきましょう。



執筆薬剤師 川崎 真理子

わたらの健康とくすり

第245号



撮影／田中 晴美

今月の内容

- ・食物アレルギーについて～その1～食物アレルギーとは
- ・もしも子どもが誤飲をしてしまったら
- ・妊娠中に痛み止めの貼り薬を使っても良いですか？

2016年6月発行

発行者 八王子薬剤センター 茂木 徹
東京都八王子市館町 1097 電話 042-666-0931

協力 八王子薬剤師会

食物アレルギーについて

～その1～

食物アレルギーとは

これから3回にわたり、食物アレルギーについて解説していきます。

第1回は食物アレルギーについてです。

■食物アレルギー

本来は体を守る免疫システムが、特定の食物により逆に体にとって不利な症状を引き起こしてしまう状態のことを食物アレルギーといいます。ただし、食中毒や特定の食物を消化できない不耐症（例：乳糖を分解する酵素が足りず牛乳を飲むと下痢になるなど）、仮性アレルゲン（アレルギーに似た症状を引き起こしたり、アレルギーを悪化させる化学物質）などは食物アレルギーには含みません。

■診断

まずは詳細な医療面接が欠かせません。受診の際は「原因と疑われる食物をどのくらい食べたのか（調理方法も含む）」、「何分後にどのような症状が出て、いつ症状がおさまったのか」、「摂取時の体調や運動の有無」などの情報を話しましょう。食物日誌を書いて症状と食物の因果関係を推測することもあります。

次に食物アレルギーの検査では採血をして抗原特異的IgE抗体（アレルギーの原因となる食物に反応する自己抗体）を測定したり、アレルゲンエキスを垂らし皮膚にわずかに傷をつけ反応をみる皮膚テスト（プリックテスト）が行われることが多いです。検査結果が陽性でも食物アレルギーがあるとは限らず、数値と重症度は一致しません。

正確な診断のためには食物負荷試験（原因と疑われる食物を実際に食べてみる）が必要です。ただし食物負荷試験を行う前にアトピー性皮膚炎や気管支喘息などのアレルギー症状を十分にコントロールして、誘発症状の判断が可能な状態で行うことが大切です。抗アレルギー薬などは症状が出ていくなくなるため、可能であれば使用を中止してから試験を行う方がアレルギーかどうか判断しやすくなります。体調の悪い時（発熱時・嘔吐時・疲労時など）は症状が出やすくなるため通常は行いません。食物除去の解除は1回の食物負荷試験の結果のみでは判断せず、試験後の日常摂取により最終的に決定する必要があります。

■治療

現時点で食物アレルギーを治す薬はありません。そのため必要最低限の食物除去が基本になります。食べられる範囲を見極めることが大切です。

■授乳

母親の抗原摂取量の10万～100万分の1程度しか母乳に移行しないとの報告があり、子どもが食物アレルギーの場合でも、通常は母親が原因食物を制限する必要はありません。ただし例外も稀にありますので医師に確認してください。

■経皮感作

アトピー性皮膚炎などで皮膚のバリア機能が弱くなっている場合は、環境中の食事のタンパク質が湿疹部位から侵入してアレルギー症状を引き起こされることもあると考えられています。スキンケアで皮膚を健全な状態に保っておくことも、食物アレルギーの予防のために重要と考えられています。

今回はアナフィラキシーとその対策について説明します。

東京医科大学八王子医療センター 小児科 牛尾 方信



ちょっとお耳を……

もしも子どもが誤飲をしてしまったら

3歳くらいまでの子どもは、好奇心から何でも手に取り、なめたり口に入れたりする傾向があります。誤飲事故は特に0歳～1歳で多く見られます。誤飲の報告が多いのはタバコ、医薬品です。事故を防ぐためには、誤飲の危険性があるものを子どもの手の届かないところに保管することが重要です。しかし万が一誤飲をしてしまったときは、どのように対処すべきでしょうか。いくつか例を紹介します。

○タバコ

タバコそのものより、灰皿の代わりに吸殻を入れていた空き缶やペットボトルの水を飲んでしまうことが多いようです。吸殻を短時間水に浸すだけで大量のニコチンが溶け出します。水に溶けたニコチンは体内に吸収されやすく、大変危険です。誤飲を発見したときは、何も飲まずに吐かせてください。子どもでは少量のニコチンでも中毒になりやすいため、すぐに医療機関を受診してください。

○固形物

食道の粘膜は薄く、異物によって食道の壁に穴が開く恐れがあります。痛みを訴えた場合は医療機関を受診してください。また、急に咳込んだ後に咳や喘鳴（ゼイゼイ、ヒューヒューという呼吸音）が続く場合は、気管・気管支への誤嚥が考えられます。咳とともに異物が吐き出せなければ医療機関を受診してください。

○漂白剤やトイレ用洗剤などの酸・アルカリ製品、灯油、外壁塗料などに含まれるシンナー

食道や喉の損傷を悪化させたり肺炎を引き起こしたりする恐れがあるので、決して吐かせず、すぐに医療機関を受診してください。その際、診断や治療に役立つので、飲んだものと同じ商品（または同じ成分のもの）を持って行くようにしましょう。

誤飲は、置いてあった物がなくなっている、子どもの口の周りが汚れているなどで発覚することがあります。何を・いつ・どのくらい飲んでしまったかをできるだけ把握することが重要です。事故が起きたときに冷静に判断するのは難しいかもしれませんが、電話で対処法を相談するのも良いでしょう。

誤飲時の電話相談窓口

- 大阪中毒110番（365日24時間対応） 072-727-2499（情報提供料：無料）
- つくば中毒110番（365日9時～21時対応） 029-852-9999（情報提供料：無料）
- ※中毒110番による情報提供は、化学物質や医薬品、動植物の毒などの中毒事故に限ります。
- タバコ専用電話（365日24時間対応、テープによる情報提供） 072-726-9922（情報提供料：無料）
- 小児救急電話相談（生後1ヶ月～6歳対象、対応時間は自治体ごとに異なる）
小児科医師・看護師から、適切な対処法や受診する病院などのアドバイスを受けられます。
全国共通の短縮番号「#8000」を押すと、お住まいの都道府県の窓口に自動転送されます。

誤飲は、十分に配慮していても起こり得ます。誤飲を防ぐために、まずは子どもの手の届かないところに物を置くようにしましょう。

執筆 薬学部実習生 北原 萌子
（監修 薬剤師 小栗 由貴子）